

第4回「新・京都市産業振興ビジョン(仮称)」策定検討委員会 発言要旨の整理

(平成 22 年7月 21 日(水) 京都ロイヤルホテル&スパ)

テーマ	主な発言の概要
外部環境	●京都企業と海外市場 ・ 中小企業のほとんどが製造、販売でアジアと取引がある。競争が激化するアジア市場においてどのように競争するのかという視点が必要である。 ・ 中小企業の輸出は、大企業に納品した製品が海外へ輸出される間接輸出である。その点からも中国市場は中小企業にとっても無視できない市場といえる。 ・ 伝統産業も海外と関係している。仏壇などはほとんどが中国製である。 ・ 経営者は設備投資等を行う際、京都市内や国内よりアジアに投資している。日本というよりアジア全体で一つの市場と考える傾向にある。 ・ 企業は特に技術職でどんどん留学生、海外の学生を採用している。遠からず海外の学生と日本人学生の採用数が逆転するだろう。 ●行政が先導する中国のインフラ整備 ・ 中国では猛烈な産業集積が進んでおり、これには行政が大きく関わっている。例えば義烏（中国浙江省）という街は人口 70 万人ほどだが、周辺の労働者を合わせると 200 万人ぐらいの都市となっている。ここでは商業のためのインフラ整備に行政が大きく投資している。
政策展開の方向性	●京都の強み ・ 国の新成長戦略の成長分野として、健康、環境、観光、アジア経済戦略、地域主権、教育、技術革新、国際化、人材育成が掲げられている。これらの分野の多くに京都は強みを持っている。 ・ 京都は産業的な強みと文化的な強みが関連しあってもものづくり産業が発展したので、強みの中に文化・伝統について書き込んではどうか。 ・ 関西学術文化研究都市のまちづくりでは、学術と科学だけではなく文化も融合させようとしたが、上手くいかなかった。文化を融合させるには京都の街中など文化資本のあるロケーションが必要である。 ●クリエイティブ産業 ・ 京都を代表するクリエイティブ産業は比較的広い範囲、ハイテクと文化伝統の感性、デザインを包含している。戦略Ⅰが科学技術、戦略Ⅱがソフトパワーと分かれているが、戦略Ⅲでは統合されるべきではないか。 ・ 戦略Ⅱにあるようにデザイン、感性が競争力につながる。京都は造形でもポテンシャルを持っているので、それを活かしてもものづくりをすると自ずと中小企業も関与できるのではないか。 ・ マンガミニクラスターは、漫画だけでなく映像と組み合わせ幅を広げるのがよい。 ●京都カレッジ構想 ・ 「京都カレッジ構想」は面白い。全寮制の大学でハイテク系、芸術系の分野の人材と一緒に議論し新しい価値、思想を生み出す構想であれば、戦略Ⅲに持ってきてもいいのではないか。 ・ 京都の強みは厚みのある文化資本や現代に生きている多様な伝統産業をもっている場で、先端的な会話や議論ができることではないか。そういった点において、カレッジ構想は「世界的な知の創造拠点」という打ち出し方がよいのではないか。

テーマ	主な発言の概要
	・ カレッジは新しいアイデアである。高付加価値の視点では、ものづくりだけでなく、ものをベースにしたビジネスモデルをいかに作るかということを考えないと付加価値は高まらない。ビジネスモデルをいかにブラッシュアップするかを考える仕組みづくりが必要である。 ・ カレッジに海外の一流研究者が来て、学生と一緒に過ごすことによる成長はきっとあるだろう。 ・ カレッジ構想は費用対効果など細かいことを考えていては失敗する。 ●環境産業 ・ これからは環境産業の分野が伸びていく。CO₂ 25%削減をビジネスチャンスに結びつけるというような、環境分野をビジネスチャンスに繋げた視点を入れる必要がある。 ●資金調達 ・ 骨子案は金融・資金についてまったく言及されていない。これでは実現性が低い。拠点をつくろうとした場合、地元だけでの資金調達は無理なので、他地域や中国の資本を取り込む必要がある。 ●総合特区 ・ 国の成長戦略では総合特区が提案されている。京都の中でも規制緩和、税制にどう取組んでいくか考えていく必要がある。 ・ 税制の改善、財政面での支援に活かすことができればと思う。 ・ カレッジ構想はかなりの経費を要するだろうから、総合特区を活用していく必要がある。 ●対象産業(分野)の絞り込み ・ 京都にはありとあらゆる産業があるので難しいと思うが、対象とする産業を絞るべきではないか。 ・ 京都には人のまねをしない、独自で開発していくという気風があるので、全体的に捉えるのではなく、先行できる分野をよりクローズアップしていく必要がある。 ●その他 ・ 骨子案「3つの戦略に基づく今後5年間の主な施策」下にある「京都市の経済を支える中小企業支援」の納まりが悪いのではないか。 ・ 中小企業の組合の機能が低下している。組合の建て直しが必要なのではないか。 ・ 今後はものづくり産業等にも、女性の強み（繊細さ等）を活かして進出できるような制度を整備していくべきだ。 ・ 日本にはイノベーションがなくてはならない。ビジネスとして中国を見ながら次を見据えていく必要がある。